



2020年6月22日

東葉高速鉄道株式会社

2019年度（第39期）決算について

- ◆開業以来最高となる輸送人員を更新
- ◆10期連続で経常利益及び当期純利益を計上
- ◆依然として2,471億円余りの長期債務が存在

東葉高速鉄道株式会社（本社：千葉県八千代市 社長：飯田 浩子）の2019年度（第39期）決算がまとまりましたのでご報告いたします。

【輸送人員】

年間輸送人員は、沿線開発の進展等に伴い、開業以来最高であった前年度を更新する5,714万8千人（前年度比0.6%増）となり、1日平均15万7千人のお客様にご利用いただきました。

【決算概要】

運輸収入は、2020年2月以降の新型コロナウイルス感染拡大の影響がありましたが、前年度並みの159億5千4百万円となりました。

関連事業による運輸雑収は、5億6千4百万円（前年度比1.1%減）となりました。

営業利益は、第六次経営改善計画を中心とした経営改善に努めた結果、63億6千8百万円（前年度比3.2%増）となり、昨年度に続いて60億円台を達成することができました。

また、鉄道建設時の長期債務に係る支払利息が16億2千2百万円にとどまったことから、経常利益46億5千1百万円、当期純利益32億3千1百万円を計上することができました。

しかし、依然として2,471億円余りの長期債務の存在により債務超過の状態であることに変わりはなく、経営上の大きな課題となっております。

（単位：百万円）

		2019年度 (第39期)	2018年度 (第38期)	増減
営業収益	運輸収入	15,954	15,960	△ 5
	運輸雑収	564	571	△ 6
		16,519	16,531	△ 12
営業費		10,150	10,361	△ 210
営業利益		6,368	6,170	198
営業外収益		142	181	△ 39
営業外費用		1,858	2,720	△ 861
経常利益		4,651	3,631	1,020
特別利益		254	239	15
当期純利益		3,231	2,525	706

【参考】

長期債務残高	247,145	254,731	△ 7,585
--------	---------	---------	---------

※記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

事業報告

〔 2019年4月1日から
2020年3月31日まで 〕

1. 株式会社の現況に関する事項

(1) 事業の経過及び成果

当社は1996年4月の開業以来、地域に密着し地域と共に歩む鉄道として、安全・正確・快適な輸送サービスの提供と健全経営の確立に努めてまいりました。

安全性の向上については、引き続き高架橋の耐震補強工事を推進したのをはじめ、車両搭載機器の予防保全や変電所機器の更新など、施設や運行の安全性向上を積極的に進めるとともに、安全推進会議の開催、安全防災対策の重点目標の設定、安全監査の実施を通じて、安全管理体制の維持・改善に努めました。

また、自然災害への対応として、6月の倒木による輸送障害の発生を受け、全線にわたり沿線樹木の再点検を行い、伐採や定期的な巡回などの対策を講じたほか、台風19号の通過に際しては、当社として初めての計画運休を実施いたしました。

さらに、鉄道運行業務における基本動作の励行を徹底するとともに、各職場単位での社員教育・訓練の実施や、職場横断的な異常時総合訓練の実施などにより、全社員の安全意識や技能の向上に努めました。

この結果、2019年度も開業以来の運転無事故記録を継続することができました。

次に、輸送サービスの向上については、訪日外国人旅客への対応として、全駅の乗越精算機を4か国語（日本語・英語・中国語・韓国語）対応の機器に更新いたしました。また、各駅のホーム及び出入口に設置されているインターホンを更新したほか、保有車両の車内照明について、照度を長く保つことができ省エネにも資するLED照明器具に交換いたしました。

一方、営業面においては、他社との共同商品である「東葉東京メトロパス」「東葉シネマチケット」「東葉羽田バスきっぷ」などの企画乗車券の販売に努めたほか、期間限定商品として「東葉ローズチケット」「東葉高速線3日きっぷ」を発売し、定期外旅客の確保を図りました。

また、沿線情報誌「プチトリ」の発行（季刊）を通じ、当社線の沿線施設やイベント情報を広く紹介することで、定期外旅客の誘致や会社のイメージアップに努めました。

さらに、10月の消費税率改定に伴う運賃改定について、事前準備や告知に努めました。

関連事業については、船橋日大前駅東口の自社物件に新たにコンビニエンスストアを誘致したほか、東海神～飯山満間のトンネル上に月極駐車場を新設いたしました。

このほか、地域との共生の取り組みとして、沿線の中高校生による演奏イベントである「東葉サマーコンサート」、沿線の見どころを巡る「東葉健康ウォーク」、地域団体や同業他社などの協力による「東葉家族車両基地まつり」、地元商店会と連携した「飯山満駅ふれあいフ

ェスタ」を開催し、地域の方々に当社への一層の親しみを感じていただけるよう努めました。

また、沿線の船橋アリーナに拠点を置くプロバスケットボールチーム「千葉ジェッツふなばし」に対し、オフィシャルパートナーとして、地元の北習志野駅及び船橋日大前駅での構内装飾などによる支援を行いました。

なお、2月以降の新型コロナウイルス感染拡大を受け、旅客に対して駅構内・車内放送により感染症予防対策や時差通勤などへの協力を呼び掛けるとともに、駅設備や電車内の定期的な消毒などを実施いたしました。

こうした取り組みの結果、2019年度の輸送人員については、開業以来最高であった前年度並みの5,714万8千人（前年度比0.6%増）となり、1日平均では15万7千人となりました。また、運輸収入は159億5千4百万円（前年度並み）となりました。

運輸雑収については、高架下店舗の撤退や、車内広告の出稿減などから、5億6千4百万円（前年度比1.1%減）となりました。

一方、営業費用面では、引き続き第六次経営改善計画を中心とした経営改善に努めました。

こうした結果、営業利益は63億6千8百万円（前年度比3.2%増）となり、昨年度に続いて60億円台を達成することができました。

さらに、鉄道建設時の長期債務に係る支払利息が16億2千2百万円（前年度比7億9千5百万円減）にとどまったことから、経常利益46億5千1百万円、当期純利益32億3千1百万円を計上することができました。

しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大が続き、2020年4月7日には国から緊急事態宣言が出されるなど、輸送人員は大幅に減少しております。今後、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する場合には、経営に大きな影響があるものと懸念されます。

(2) 対処すべき課題

鉄道事業者として最大の課題は輸送の安全確保であり、今後も安全を確保するため、安全管理規程に基づき対策を確実に実施してまいります。

一方、2019年度も当期純利益を計上することはできたものの、依然として多額の有利子負債により債務超過の状態であることに変わりはなく、経営上の大きな課題となっております。

このため、引き続き、国、千葉県、船橋市、八千代市による利子補給や、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構による建設資金の償還期間の大幅な延長を引き続き実施していただくとともに、今後の支援のあり方などについては、支援関係者と当社で構成する「東葉高速自立支援委員会」においてご検討いただくことになっております。

このように多大な経営支援を賜っている関係各位に対しまして、深甚なる謝意を表すものであります。

株主の皆様におかれましても、これまで同様、当社の置かれております現状について、ご理解、ご高配を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

貸借対照表

(2020年3月31日現在)

(単位：千円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資 産 の 部		負 債 の 部	
流 動 資 産	25,367,786	流 動 負 債	12,952,049
現金及び預金	13,048,214	未 払 金	9,016,661
未 収 運 賃	952,749	未 払 費 用	299,932
未 収 金	172,903	未 払 消 費 税 等	251,138
有 価 証 券	11,000,000	未 払 法 人 税 等	1,105,060
貯 蔵 品	158,824	預 り 連 絡 運 賃	633,360
前 払 費 用	35,094	預 り 金	15,995
		前 受 運 賃	1,379,245
		前 受 金	19,466
		賞 与 引 当 金	231,187
固 定 資 産	223,202,704	固 定 負 債	241,248,543
鉄道事業固定資産	217,839,809	長 期 未 払 金	239,470,185
建 設 仮 勘 定	635,443	退 職 給 付 引 当 金	1,625,869
投 資 そ の 他 の 資 産	4,727,451	そ の 他 の 固 定 負 債	152,488
投 資 有 価 証 券	4,003,360		
長 期 前 払 費 用	56,446		
繰 延 税 金 資 産	667,195		
そ の 他 の 投 資 等	450		
		負 債 合 計	254,200,592
		純 資 産 の 部	
		株 主 資 本	△ 5,630,101
		資 本 金	62,600,000
		利 益 剰 余 金	△ 68,230,101
		そ の 他 利 益 剰 余 金	△ 68,230,101
		繰 越 利 益 剰 余 金	△ 68,230,101
		純 資 産 合 計	△ 5,630,101
資 産 合 計	248,570,491	負 債 純 資 産 合 計	248,570,491

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

損 益 計 算 書

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

(単位：千円)

科 目	金 額	
鉄 道 事 業 鉄 道 事 業 営 業 収 益		
旅客運輸収入	15,954,812	
運輸雑収	564,656	16,519,468
鉄 道 事 業 営 業 費		
運送費	4,793,572	
一般管理費	333,593	
諸税	822,552	
減価償却費	4,201,155	10,150,874
営業利益		6,368,593
営 業 外 収 益		
受取利息	563	
有価証券利息	23,247	
その他の収益	118,363	142,174
営 業 外 費 用		
支払利息	1,622,266	
その他の費用	236,503	1,858,770
経常利益		4,651,997
特 別 利 益		
固定資産売却益	153	
工事負担金等受入額	254,811	254,964
特 別 損 失		
固定資産圧縮損	254,135	254,135
税 引 前 当 期 純 利 益		4,652,826
法人税、住民税及び事業税	1,479,859	
法人税等調整額	△ 58,481	1,421,378
当 期 純 利 益		3,231,448

(注) 記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。